

Y's Men International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMIワールド 2022-2023 No.1 日本語版



内容：国際会長の言葉 - 「ワイズメンズクラブは、友情と親睦を大切にする家族の運動です」・活動ニュース - デンマーク・オースでの国際議会の概要報告・マイクロヒストリー - 国連との協働 デビー・キャンベル・レッドモンド・証言 - ワイズ運動への入会希望者に「帰属感」を提供する取り組み ラリー・ポール・記録 - 「2022年とその先に向けて」タスクフォースの振り返り チャールズ・レッドモンド・地域からのニュース - ヨーロッパ、マレーシア、韓国、ロシア、インド、アメリカ、ラテンアメリカ・魂の真言 - 援助を通しての癒し

読者の皆さまへ



世界的なパンデミックによる不安要素が一段落したと思っていたら、またしてもそれに振り回されることになってしまいました。11月に台湾での開催を予定していた待望の100周年記念式典と関連行事の延期を余儀なくされたのです。台湾における新型コロナウイルス

規制の見通しが不確実なため、国際議会は、2023年3月まで開催を延期することを決定しました。その時には、台北に皆が一堂に集い、100周年記念祝賀と国際議会の審議を行うことが期待されています。

本号では、国際会長のメッセージから、私たちの「戦略2032」が掲げるものを要約します。家族、友情、親睦に焦点を当て、人類全体を包み込む癒しのタッチで、サミュエル国際会長は、「私たちは不平等な世界に住んでおり、仲間の健康を保証する適切な医療インフラへのアクセスは、まだ課題となっています。そして、教育は、多くの貧しい家庭が、より良い生活の質へと飛躍することを可能にするゲームチェンジャー（大きな変革をもたらすもの）でした。」と述べ、次の100周年に向けて私たちの運動を発展させるための4つの行動計画を綴っています。「ワイズメンズワールド」の初期の号（No.2/2004-05）から引用したラリー・ボル（当時、米国北中央区理事）の『「帰属感」を提供する』は、運動を成長させる方法という文脈で提供できる最高の証言です。与えることの喜びを経験し、それをまさに楽しみ、その一部となるフェロウシップに参加することほど素晴らしいものはありません。それが私たちの運動であり、そうあるべき姿なのです。

また、歴史的な記録として、「2022年とその先に向けて」タスクフォースについて、委員長のチャーリー・レッドモンド

表紙：エカテリンブルグワイズメンズクラブのメンバーは、ワイズメンズクラブ国際協会の100周年を記念して、特別のワイズメンズクラブ国際協会市電で市内観光をしました。コーヒーやカップケーキ、チョコレートを味わいながら、歌やクイズでワイズメンズクラブ国際協会の歴史に思いを馳せました。

YMIワールド

ワイズメンズクラブ国際協会

国際本部:Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長:コシー・マシュー

日本語版翻訳グループ:田尻忠邦(委員長・大阪)、田中博之(東京多摩みなみ)、青木一芳(千葉)、朝倉正昭(東京世田谷)、今城高之(横浜つづき)、生川美樹(川越)、利根川恵子(川越)、花輪宗命(東京八王子)、比奈地康晴(東京)、倉田正昭(京都)、谷川寛(大阪センテナリアル)、谷本秀康(広島)、中井信一(奈良)、前田香代子(熊本ジェーンズ)

印刷:(株)三浦印刷所 三浦克文(岡山)

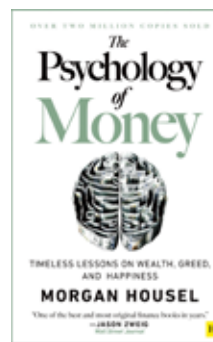
が全文を掲載した文書と、国際ヒストリアンのデビーによる国連との協力に関するマイクロ・ヒストリーの記事があります。どちらも歴史的な価値があり、クラブ会員にとって大いに参考になるはずです。

また、いつものように、私たちの地球規模での運動のさまざまな部分で起きていることを俯瞰できるよう、活動ニュースや地域からのニュースもたくさん掲載しています。本号をお楽しみいただければ幸いです。ご意見、ご感想をお聞かせください。

ワイズリー

コシー・マシュー

私の本棚から



お金の心理学：「富と欲と幸福に関する永遠のレッスン」モーガン・ハウゼル著

お金と上手に付き合うには、必ずしも何を知っているかということではありません。それは、あなたがどのように行動するかということです。そして、行動は、本当に賢い人にさえも教えるのが難しいものです。この『お金の心理学』では、受賞歴のある著者モーガン・ハウゼルが、人々がお金について考える不思議な方法を探る19の短編を紹介し、人生で最も重要なトピックの1つをより良く理解する方法を教えます。『お金の心理学』は、経済の中でお金がどのように動き、個人の偏見や感情的な要素が私たちの金銭的な判断にいかにか重要な役割を果たすか、また、お金に関して、より合理的に考え、より良い判断をする方法を探ります。個人の金銭感覚は、私たちの人生において大きな役割を果たします。そのため、お金に関する多くの推定や誤った考え方が長年にわたって生まれてきました。お金を持つことは、運の結果であるとか、お金持ちは、皆、遺産を相続しているのだと考えているのです。それは、間違いです。お金は、世界共通の、循環する資産です。そして、あなたがいくつかの富を増やす方法を採用し、現在の考え方をを変えることを選択した場合、あなたも経済的に自立することができます。偏った金銭的な判断が、現在の生活とあなたが望む生活との間に立ちほだかるのです。それなら、それを見抜いて取り除くのは、簡単なことでしょう。あなたのステータスの求め方、妬み、その他あなたを支配している感情は、すべて、あなたの金銭的な決断をするときに大きな役割を果たすのです。『お金の心理学』では、自分の経済状態を改善するために、今日からできることをまとめています。ここでは、この本から得た3つの教訓を紹介します。1.貪欲になることは、経済的に最大の失敗になりかねない。2.嫉妬は、あなたの思考を鈍らせるので、マネーマーケットに居場所はない。3.お金に関する若い頃の経験が、その後の金銭的な決断を左右する。(ある個人の書評)

自己を超えて、変革を起こそう

「ワイズメンズクラブは、友情と親睦を大切にす家族の運動です」

親愛なる友人の皆さまへ

2022-23 年が皆さまにとって素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。ご存じのとおり、私たちの運動は3ヶ月前に100周年の年に入りましたが、この重要な時点で運動の守護者、旗手として、私たちの運動の100周年会員であるというこの権利に伴う「義務」を本当に認識する必要があります。私は、2022-23年度の国際会長を務めることを光栄に思い、皆さまの手を、ひいては私たちの運動を強化するために、全面的な支援を提供します。

私たちの運動は、友情と親睦が私たちの組織文化の重要な側面である家族運動です。甘い友情は、魂をリフレッシュさせ（箴言 27:9）、アンドリュー・バーゴンが言うように、「友情の栄光の頂は、見えて息をのむほど美しい」のです。このような強い友情と仲間意識が私たちを結びつけ、私たち全員が公正で苦痛の少ない世界を目指して努力すれば、私たちはどこにいても、間違いなく地域社会に永続的なインパクトを与えることができます。この信念に駆り立てられ、私は100周年記念の年の主題を「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」としました。私たちのすべての行動は、それが私たちの運動の内外で生み出すインパクトに基づいて決定され、実行されるようにしましょう。

私たちは、不平等な世界に住んでおり、仲間の健康を保証する適切な医療インフラへのアクセスは、まだ課題となっています。そして、教育は、多くの貧しい家庭が、より質の良い生活へと飛躍するための「ゲームチェンジャー」となってきました。そこで私たちは、「世界を癒そう」に少しでも貢献できるよう、「全ての人に健康と教育を」をプロジェクトのテーマに選びました。プログラム面では、100周年に次のような目標を掲げています。

会員数の増加を重点目標とする：100周年記念の年に達成できる最高のマイルストーンを、全世界の会員数を現在の約2万4千人から4万人にすることに、皆さまは、きっと同意していただけたと思います。そのためには、既存の会員を維持し、特に過去10年間に退会した会員を可能な限り呼び戻し、新しい会員を獲得する必要があります。

家族で楽しめる運動を：もうひとつ、私たちが力を注ぐべきことは、クラブの環境をより家族的なものにし、配偶者、ユース、子供たちが私たちの活動にもっと興味を持てるよ

うにすることです。そうすれば、外から見ている人たちにも、私たちの活動を、より生き生きとした魅力的なものにできるはずです。これは、他の類似した組織と比較して、大きな差別化要因になるはずです。

各區で100周年記念事業を実現する：各區で、少なくとも1つの長期的で、目に見え、インパクトのあるある慈善／地域社会奉仕の事業を「100周年プロジェクト」として実施し、正しい知名度、イメージ、インパクトを生み出すことも、真剣に検討していただきたい提案です。このプロジェクトは、少なくとも10万米ドル規模のもので、区内の全コミュニティの注目を集めるようなものでなければなりません。YMCA や、CSR（企業の社会的責任）資金を大義のために使ってくれる志の高い組織や企業を巻き込むよう、努力しましょう。

私たちの運動を真に「志の高い」ものにする：私たちの運動が、私たちの運動以外の人たちにとっても憧れの存在となるような方法と手段を、心一つにして探そうではありませんか。各クラブとそのメンバーは、その行為と行動によって、より多くのメンバーを惹きつける「磁石」のようであるべきです。

私たち一人ひとりが触媒となり、内面から変革を始めることができれば、上記の目標を達成することができるのです。このような強い思いから、私たちは100周年のスローガンに「自己を越えて、変化を起こそう」を選びました。ジョセフ・マーフィーが『潜在意識の力』で言っているように、「無限の富はあなたの周りにある。もし、あなたが心の目を開いて、あなたの中の無限の宝庫を見るならば…あなたの中には金鉱があり、そこからあなたが人生を楽しく、輝かしく、豊かに生きるために必要なすべてのものを取り出すことができます。」私たちには、望むことを実現するチャンスが一度しかないのですから、未来に永遠に記憶されるような良い足跡を残すために、一生懸命に努力しようではありませんか。

心を込めて、ワイズリー

国際会長 K・C・サミュエル

デンマーク・オーフスでの国際議会の概要報告

第20回YMCA世界大会は、2022年7月3日から8日までデンマークのオーフスで開催され、その期間中にYMIの国際議会（ICM）が開かれました。YMCAが採用したテーマは、「Ignite（奮起させる）」で、1,200人以上の参加者が、世界各地でYMCA運動のために働くことを誓い合いました。

7月4日（月）、「Ignite」の正式な開会式の数時間前、国際書記長ジョース・ヴァルギースが国際議会で「この世界大会を通じて、どのようにYMIを推進・拡大することができるのでしょうか。」と呼びかけました。彼は、YMIからの参加者に、できるだけ多くのイベント参加者と出会って、YMIについて話をするように求めました。そして、私たちは、彼らに伝えるべきことはたくさんありました。例えば、YMIは1922年にYMCAを支援するために独自に設立されました。今日、私たちのクラブは、直接的にも間接的にもYMCAに貢献し、都市YMCAや各国同盟に財政的、物理的な支援を行い、YMCAのミッションと共にプロジェクトを遂行しています。そのため、何百万ドル、何百万時間が世界中のYMCAに提供されているのです。

火曜日の午後、私たちは国際書記長の報告を聴きました。ここに、いくつかの重要で興味深い活動を紹介します。

1. 私たちは、スイスのジュネーブに134平方メートルの事務所を購入しました。
2. デジタルアーカイブを開設しました。
3. 1922年にYMIが創設されたトレドの町に、新しいYMIクラブができ、旧クラブも再興されました。
4. YMIは、50年以上運動に貢献した300人以上の会員を「ゴールド・メンバー」として認定しました。
5. コソボの子供たちのためにYMCAキャンプ場を開設しました。この企画は、ワイズメン主導の元行われました。
6. 新しいユースプログラム、iGo（「世界に手を伸ばすためのインターン制度」）が現在、実施され、4人の若者が



元国際会長ヘンリー・グリンドハイムが、アニー・サミュエル婦人夫人が見守る中、K・C・サミュエルに国際会長バッジを装着

様々な場所でインターンシップを行っていることが既に知られています。

7. YMIは2009年からロールバックマラリアに参加しており、以来、毎年10万ドルの募金を集めています。私たちは、2030年頃にはマラリアが世界から根絶されることを信じていますし、また、YMIは、まもなく新しいグローバル・プロジェクトを発表できることを嬉しく思っています。

8. 2021/22年度には、18カ国103の新クラブをチャーターしました。そのうち1カ国は新規加盟（アルバニア）、再加盟国は4カ国（エチオピア、ギリシャ、インドネシア、カタール）です。



就任宣誓をする国際役員 2022～23 左から、国際会計T・M・ジョース、次期国際会長ウルリック・ラウリドセン、国際会長K・C・サミュエル、そして司式者の元国際会長ヘンリー・グリンドハイム。アニー・サミュエル夫人も写真の奥に

YMI主催のディナーでは、参加者全員を招待し、「YMI100周年」を祝いました。この様子は、オンラインで世界中に配信されました。その後、YMIのデンマーク区は、カクテルパーティーを主催し、他国からの訪問者に地元の



機会均等は、もはや十分ではありません。私たちがサービスを提供する人々にとって適切な存在であり続け、地域社会がより強く、より安全で、より団結したものになるのを助けるために、私たちは公平性をもって指導する必要があるのです。つまり、歴史的に私たちの成長を妨げてきた障壁を特定し、取り除く努力をすることです。同時に、一人ひとりが尊厳を持って自分の可能性を最大限に発揮するために必要な独自のサポートを受けられるようにすることです。

リンダ・ゴンザレス-シェイブス



参加者に向けて挨拶する リンダ・ゴンザレス-シェイブス、多様性と包摂性、グローバル主任

ワイズメンと交流することを奨励しました。

国際議会で話し合われた重要事項の中で、K・C・サミュエル国際会長は、YMI100周年期間中とその先の目標を発表しました。また直前ヨーロッパエリア会長のビヨン・アルブ・ベンセンは、「国際憲法とYMI組織の近代化」のための委員会の仕事について話してくれました。この委員会は、2023年7月に提案を行いたいと考えており、そのための提案やアイデアを歓迎すると語っていました。

アメリカYMCAの「多様性、包摂性、グローバル」主任であるリンダ・ゴンザレス-シェイブスは、「どのようにしたら私たちの組織で多様性と包摂性を実践できるだろうか。」と私たちに言葉を向けました。そして、もちろん、チャーミング・シェン実行委員長によって台北で開催予定の100周年記念式典の最新情報も教えてもらいました。

ヴェイリー・モエルガールド ヨーロッパエリア会長

アメリカ YMCA 同盟に感謝



YMI100周年記念賞が、デンマークのオーフスで開催された第20回YMCA世界大会でアメリカYMCA同盟に贈られました。YMIアメリカエリア会長のシャジュ・サムが見守る中、のK・C・サミュエル国際会長から、全国理事会議長のシシ・ロハスに賞が贈られました。

挨拶の中で、ジョース ヴァルギース国際書記長は、「アメリカYMCA同盟は、地域と世界における比類なき影響力、ワイズメンズクラブ国際協会の設立と発展への支援、そしてすべての人にとって世界をより良い場所にするための継続的なリーダーシップが評価され、今回の受賞となりました。」と述べました。



デンマーク・オーフスでのYMCA世界大会のYMIブース前のウルリック・ラウロドセン次期国際会長

国連との協働

ヒストリアン国際事業主任 デビー・キャンベル・レッドモンド



2004年10月、ヘルシンキでの次期理事研修中に、直前国際会長・オレ・ハンセンは、ベンソン・ワブレ（当時次期国際会長）、国際書記長・ロランド・ダルマスと会い、国連・経済社会理事会特殊諮問資格の申請について話し合いました。

経済社会理事会への申請については、オレ・ハンセンを委員長とする国連認定のためのタスク・フォースが任命されていました。2005年1月の年次議会ワークブックのために、この旅の始まりを記した最初のレポートが作成されました。

ワイズメンズ・ワールド2004/2005年の第2号で、国連の諮問資格に関する短い記事が掲載されました。2005年12月14日付けのレポートで、ハンセンは、「国連・経済社会理事会の諮問資格」の申請を行ったと報告しています。申請の締切は、2005年5月15日となっていました。申請が受理された後に、YMCAとの関係について質問があり、国際書記長・ロランド・ダルマスが回答しました。

2006年7月26日、ワイズメンズクラブ国際協会は、肯定的な決定の通告を受けました。2006年8月、オレ・ハンセン委員長は「国連と協働する諮問資格委員会」という委員会について報告しました。その委員会のメンバーは3人でした。オレ・ハンセン委員長、元国際会長・レイチェル・リーグ、そして国際書記長・ロランド・ダルマスです。その報告には、委員会の役割が示されていました。1) 国連の諮問資格の意味合いと、それが世界中のワイズメンに与える可能性について、



ワイズ運動全体に情報を提供し続けること。2) YMIの国連諮問資格を継続するために、国連のアジェンダに沿った行動とプログラムが実施されるように推奨すること。3) 国連が、諮問資格を持つNGOに要請する定期報告書を作成すること。

2006年12月4日付のオレ・ハンセンの報告書には、国連の諮問資格についてクラブや会員に認識してもらうことが課題であると記されています。タスクフォースは2007年3月21日にジュネーブで会合を開き、どのような行動を取るか計画する予定でした。世界YMCA同盟と密接に協力することを望んでいました。彼らは、国際議会に提案し、承認を得る必要があることを承知していました。「国連・経済社会理事会への特殊諮問資格を持つNGO」という立場をどのように活かせるか、国連からの回答を待っている、というのが主な内容でした。

国連のミレニアム開発目標との整合性

委員会は、国連が掲げる8つのミレニアム開発目標のプロジェクトと分野を検討し、どこに貢献できるかを検討する必要がありました。その結果、「HIV/AIDS、マラリア、その他の病気と闘う」という目標8に決定しました。マラリア撲滅のインセンティブを支援することになったのです。2012年までにマラリアの脅威を世界からなくすというのが、世界共通の目標でした。YMIは特に、2010年までにマラリアの重荷を半減させることに貢献できると考えたのです。この目標は、やがて2015年の「持続可能な開発目標（SDGs）」（17項目）の一部となります。2007年、国際議会により行動計画が策定され、承認されました。

アクションポイントとしてのRBM

ロールバックマラリア募金プロジェクトは、2008年にデンマー



RBMキャンペーン初期にシエラレオネで長期残効型防虫処理蚊帳を配布するYMIとYMCAボランティア

クのヘアニングで開催された国際大会で、特に、オレ・ハンセン委員長、元国際会長・レイチェル・リーグ、国際会長・ケヴィン・カミングスによって発表されました。委員会の名称は、国連委員会に変更されました。この募金活動は2008年から2009年3月31日にかけてのみ行われる予定でした。その間に、150,000スイスフランを集めるという提案でしたが、2009年7月までに、182,340スイスフランが集まりました。2009年7月21日、183,000スイスフランの小切手が国際赤十字(IFRC)に渡され、フリータウンワイズメンズクラブ(シエラレオネ)が2009年9月に行われるプロジェクトに協力し、オランダ赤十字の協力で11月から12月2日の間に、さらに寄付の追加することに合意しました。

2009年11月までに、国連委員会が開催され、国連を通じてプログラムやサービスを提供し続ける方法について議論がなされました。ロールバックマラリアをさらに5年間継続することが合意されました。2010年8月までに、国連委員会は、

国連グローバル委員会となり、各地域からの代表者が委員に就任することになりました。5年間のキャンペーンが、2010年10月24日(国連の日)に始まり、2011年4月25日の世界マラリアデー前後にキャンペーンの広報を行うことが強く要請されました。キャンペーンでは、LLINと呼ばれる長期残効型防虫処理蚊帳を65,000張購入するために、50万スイスフランを集めることが望まれていました。2011年にジュネーブで開催された年次議会中には、IFRC事務局への訪問が含まれました。

2014年の国際議会で、RBMプロジェクトは2018年6月まで延長されました。2019年、ワイズメンは、国連と協力したり、国連のために活動したりする、さまざまな組織と連携しているグローバルファンドとの「マルチステークホルダー協定」に参加することに同意しました。この団体は、エイズ、結核、マラリアなどの伝染病を撲滅することを望んでいます。

最新情報

インターナショナル・ユース・コンボケーション(IYC)2022



2022年9月4日から9日までタイのチェンマイYMCAで開催された第18回ワイズメンズクラブ国際協会ユースコンボケーション(IYC)2022の最終日に撮った集合写真。

8地域(14カ国)から80名のユース代表が参加し、「過去を敬い、現在を大切に、未来を拓く」というテーマで討論が行われたコンボケーションです。大会の詳細は、次号の『ユース・ワールド』に掲載されます。

ワイズ運動への入会希望者に「帰属感」を提供する取り組み

米国北中央区 元理事ラリー・ボール

私たちは、入会希望者に「帰属感」、つまり、自分の居場所は、ワイズダムの中にあるという感覚を提供しなければならないのです。それは、クラブを宣伝するのではなく、私たちの目的を伝えることです。私たちのプロジェクトに参加してもらったり、与えることの喜びを経験してもらったりです。

例を挙げて説明します。私は、10年前に、友人に誘われY サービスクラブの例会に参加しました。彼は、「義務ではないので、ただ来て、人々に会って、この組織が自分に向いているかどうか判断してほしい」と言いました。それで私は、行くことにしました。私は、素敵な人たちに出会い、温かく迎えられ、終わった後には「また来てください」と言われました。クラブが世界的な組織の一部であることを説明されました。そして、会員数や、会費、例会には優れた講演者を招いていること、例会は1時間しかかからないこと、などを教えてくれたのです。彼らは、大きな目標を語りました。私は、確信が持てませんでした。他の組織も訪問しましたが、そこでも歓迎され、また来てくださいと言われました。しかし、「帰属感」を感じられませんでした。

役を依頼される

私は友人に、「お誘いはありがたいのですが、入会は遠慮させていただきます」と伝えました。「わかりました、あなたの決断を尊重します。でも、お願いがあるのですが」と、彼は言いました。「もちろん、何かお手伝いできることはありますか」と、私は言いました。「そうですね、予定がダブってしまって、今夜は、ワイズメンの敷地でクリスマスツリーを売る予定ですが、私は、他の場所に行かなくてはならなくなってしまい、代わってもらえませんか。簡単な作業です。時間は、3時間だけです。暖房付きのトレーラーが用意しており、他のワイズメンもいるので、必要なことは全部教えてくれると思います。」と彼は、言いました。私には夜の予定はありませんでした。損することは何もありません。私は、「いいですよ」と答えました。

約束の時間に到着し、敷地で作業している他の2人に合流しました。クリスマスの2週間前でした。寒い夜でしたが、私は暖をとりながら、家族連れのツリー選びを手伝いました。枝を切り落とし、整え、車やバンに固定するのも手伝いました。とて

この記事は“ワイズ・アライアンス”(アメリカ地域ブレン)に掲載され、その後、ワイズメンズ・ワールド 2004年-05年度第2号に掲載されたものです。次の100年へ向けて、あらためて読んでいただくように、ここに再掲載しました。

も楽しい、昔懐かしい時間でした。閉店間際の9時頃、もう一人の担当者(ウォルターと呼ぶことにします。)と私が肩を寄せ合い、足踏みをして、手をこすりながら暖をとっていたところに、若い女性が門を通過して敷地にやってきました。10代後半と思われる女性は、帽子もマフラーも手袋もブーツもなく、背の低い彼女には長すぎる上着で、かなりみすぼらしい格好をしていました。「ご近所さんにクリスマスツリーを買ってあげたいので

す。彼らは高齢で、こんな夜に外出するのは、難しいのです。」そう言って、彼女は、手を差し出しました。「彼らは、ツリーを買うのにこれだけのお金しか出せなかったのです。私は、頑張りますと彼らに伝えました。彼らはここから数ブロックのところに住んでいます。」優しい雰囲気ウォルターは、若い女性を見下ろしながら、尋ねました。「ツリーに使うお金はいくらありますか。」「彼らは4ドルしか持っていなかったのも、もし助けになるなら、私は自分のお金を少し持っているの、彼らのツリーのために支払うことができます。」

私は、彼女がウォルターに話しかけてくれてよかったと思いました。なぜなら、敷地内のどのツリーも、彼女が手にしているお金よりずっと高いのを知っていたからです。私は、彼女に悪い知らせを伝える人間にはなりたくなかったのです。

当たり前のことを特別な方法でする

ウォルターは、彼女の目をまっすぐに見て言いました。「お嬢さん、この敷地にあるすべてのツリーがちょうど4ドルです。さあ、すべてのツリーを見て、彼らのために最も良いと思うツリーを選んでください。それをアパートまで運ぶのを手伝ってあげましょう。」と言

ました。彼女は、その通りにして、きれいに刈り込まれた5フィートのツリーを選びました。私は、それを肩に担ぎ上げ、彼女の後をついて行きました。「ありがとうございます、ありがとうございます。このことが、彼らにとってどんな意味を持つかわかっていただければいいのですが。」と、彼女は、言いました。彼女は、家に閉じこもっている老夫婦を助けることができたことと知って、声を弾ませ、足取りも軽やかでした。私は、立ち止まってウォルターを見ましたが、普段通りの態度で、そそくさと立ち去っていききました。私は、素晴らしいものを目撃したことに気づきました。私は、他人を助けるために自らを捧げた二人のシンプルな優しさを観察することが出来ました。私は、皆さんが、すでにご存じのように、ワイズメンとワイズウイメンは特別なことをするのではなく、特別な方法で普通のことをするのだということに気が始めたのです。

次頁下段へつづく



「お嬢さん、この敷地にあるすべてのツリーがちょうど4ドルです。さあ、すべてのツリーを見て、彼らの為にもっともよいと思う木を選んでください。それをアパートまで運ぶのを手伝ってあげましょう。」

「2022年とその先に向けて」タスクフォースの振り返り

タスクフォース委員長 チャールズ・レドモンド

ジョウン・ウィルソンが国際会長時代の2016年に、このタスクフォースを立ち上げました。最初のメンバーは、5人でした。

国際会長 ジョウン・ウィルソン（委員長）

元国際会長 藤井寛敏

元国際会長 アイザック・パラシカル

元国際会長 フィン・A・ペダーセン

元地域会長 チャールズ・レドモンド

藤井は、年齢と旅行の問題から、2018年に交代を希望しました。元地域会長のラッセル・ジョーンズがタスクフォースに参加し、5人体制に戻りました。その際、ムン次期国際会長の要請により、チャールズ・レドモンドが委員長に就任しました。

「2022年とその先に向けて」で開始された大きなプロジェクトは4つあります。

1. 当初の目標

最初の課題は、既存の「2022年に向けて」の目標を見直し、より理解しやすく、測定可能なものにする方法を見つけることでした。このタスクは、比較的単純に見えましたが、タスクフォースは、既存の目標を測定することが困難であることを発見しました。最初の目標は、変更されませんでした。残りの目標もタスクフォースで検討され、再構成、単純化されました。これらの目標は、元の目標の意図を維持しつつ、測定可能で、より方向性を示す箇条書きの目標に置き換えられました。

a. ワイズメンズクラブ国際協会（YMI）のメンバーを最低100か国50,000名に増やす。

b. 以下により、ワイズメンズクラブ国際協会を世界的なレベルで強化する：

- YMCAと地域社会に対して適切なサービスを提供する。
- 私たちの社会的イメージを高める。
- ワイズメンズクラブ国際協会およびその使命に対してのメン

バーの認識を向上させる。

「2022年とその先に向けて」タスクフォースが完了した目標についての作業とアプローチは、チャレンジ22で提示された7つのステップの基礎となったものです。目標の最も重要な部分は、YMIを強化することであり、数字は後から付いて来ることに留意することが重要です。

2. 国際事業主任メンターと国際議員コーディネーター

次の課題は、自分たちの将来を見据えることでした。まず、当初の目標を達成するために、私たちの組織がどのような状態にあるのかを知りたいと考えました。その情報の多くは、国際事業主任の報告書から得られるはずでした。タスクフォースのメンバーは、全員、過去に国際議員だったこともあり、中にはレポートを完成させていない国際議員が必ずあることは承知していました。しかし、これは、例外ではなく、むしろ一般的なことであることがわかりました。

何人かの国際事業主任は、地域事業主任とどのように連絡を取り、目標を設定し、地域事業主任から情報を収集したかを示す素晴らしいレポートを送ってきました。しかし、中には何も送ってこない者もありました。また、地域事業主任からも何も連絡がなかったとの報告があった一方で、地域事業主任からは、国際事業主任から連絡がなかったとの報告もありました。目標を設定していない者もあり、目標を設定していても地域事業主任と共有していない者もありました。多くの国際事業主任は、自分たちの仕事を理解しておらず、情報を探したり、助けを求めたりすることがありませんでした。

17頁へつづく

与える喜びを体験する

この体験を振り返ってみると、友人は「話してもわかってもらえない」とわかっていたのだと思います。彼は、私にその経験をさせるよう段取りをしてくれたのです。彼は、クラブではなく、目的を売り込みました。私がクラブのためにできることだけでなく、クラブが私のためにできることも経験させてくれ、与えることの喜びを体験させてくれたのです。それから10年経ち、Yサービス組織は、私の人生の大きな部分を占めるようになりました。本当に、私が知る限り最も素晴らしい人たちは、ワイズメンとワイズウイメンです。そして、私たちの持つ最も貴重な贈り物である「時間」を捧げることで、共通の絆、互いへの感謝と尊敬が育まれるのです。私たちの人生には限られた時間しかなく、神様は、それを均等に与えてはくれません。「帰属感」を持つことは、神、家族、国、そして人々に仕えるという、私たちが課せられた使命を果たすための方法を知ることもあります。私たちは、イエス・キリストの教えに従うことによって、神

に仕えます。私たちは、自分たちの時間を提供し、募金活動を行うことで、YMCAに入会する余裕のない家族にもYMCAに入会してもらえよう、奉仕活動に取り組んでいます。私たちは、あらゆる国籍や信仰を持つ人々との親善大使として国に貢献します。そして、私たちは、タイムオブファスト、奨学金、その他ワイズダムのプロジェクトを通して人々に奉仕しています。このことを一番よく表現した、マーク・トウェインの言葉があります。「親切は、耳の聞こえない人に聞こえ、目の見えない人に見える言葉である」

社会が内向きになり、人々がボランティア活動をする十分な時間がないように思えるこの時代、ただ友人にYサービスクラブに参加しないかと誘うだけではいけません。私の友人がしたように、クラブではなく、目的を売り込むのです。そして、その人が「すること」に参加し、クラブのメンバーとして、与える喜びとそこから得られる見返りの喜びを経験出来るように取り計らうのです。

地域からのニュース

ヨーロッパ:デンマークヴィジュアルIIクラブは夏季休暇が終わり活動を開始しました



ミニゴルフで地域奉仕のための資金集め



次期国際会長ホームクラブのバナーの前で

デンマーク・オーフスで世界 YMCA 大会開催中の7月、ワイズの国際議会も開かれていました。私の所属クラブ、ヴィジュアルIIワイズメンズクラブの会員の一人に、就任式の際に揚げられていた「次期国際会長ホームクラブ」のバナーが渡されました。8月15日に夏季休暇後の最初の例会で、バナーがホーゲン・ラーセン会長に手渡されました。(グループ写真の中で背が高い人です)

私たちは、ビルンダで開かれた最初の例会に参加しました。そこでは、ワイズメンズクラブのミニゴルフ会があり、年間 25,000 米ドル相当の利益をもたらしています。1968年にチャーターした私たちのクラブは、大変活発なクラブで、オランダのズウォレワイサービスクラブと兄弟クラブ関係にあり、このクラブとは、ルーマ

ニアの「クリスチャン・シギソアラワイズメンズクラブ」の共同スポンサークラブの間柄です。私たちは、クリスマス季節になると、クリスマスカレンダーの販売をしますし、ダンミッションと呼ばれるキリスト教系の団体のために古着や家具を集めたりもします。

私たちのクラブは、クラブ内の結束が固く、会員が病気になったり、家族の不幸が起きたりした時、さらに精神的ストレスが生じた時にお互い助けあいます。非常に硬い絆で結ばれており、誰もこれを壊せません。

YMIの役員推薦にも積極的に関わりますし、私3年間の国際執行役員任期、積極的に支援すると約束してくれています。

次期国際会長 ウルリック・ラウリッセン (デンマーク)

マレーシアでの YMI100 周年のお祝い

マレーシアのシルバー・ステイト Y サービスクラブは、8月28日にマレーシアの地元で YMI100 周年を祝いました。記念として地元のシングルマザーホームの子供たち、「ブレイズ・ホーム」の20人の孤児たち、その他の貧しい家庭に、100袋のお菓子や、ランチボックスを配りました。

ちょうど8月31日はマレーシア国家の創立記念日ですので、子供たちとワイズの会員が、一緒にみんなでワイズの歌とマレ

ーシアの国歌を歌い、旗を振り、愛国心を示し、祝いました。同クラブは、YMI誕生の100周年を祝い、記念のケーキを作り、100周年のTシャツを100枚、同じく100個の福袋と100周年の記念バナーを作成し、祝いました。そのバナーは、子供どもたちやワイズ会員の手形で飾られています。

SMIT 部部長ヘレナ・チア



ワイシャン・ホームの子供たちと



子供たちに福袋を配る風景

韓国:平和と調和を促進するためのウォーキングとランニング—漢江から鴨緑江まで

ウォーキングとランニングは、平和と調和を広める良いツールであり、誰もが参加出来る活動です。最近、YMI100周年の記念事業で韓国のワイズメンが「マラソンとウォーキングイベント」を開催致しました。北朝鮮からの脱北者やソウルの障がい者も参加しました。このイベントは、「漢江から鴨緑江へ」という副題が付けられ、これがスローガンにもなりました。漢江は、大韓民国の首都ソウルを流れており、鴨緑江は、北朝鮮と中国の国境を流れる川です。このスローガンは、脱北者の逃避行の大変さを表現したものであり、現在では脱北者が、私たちすべてと共に生きる「より良い社会」を作る手助けをすると言う意味が込められています。



ワイズメンズクラブの会員とその家族、YMCA スタッフと大学生ボランティアの約 300 名が、アジア・パーク・アンフィシアターにて開催されたイベントに参加しました。

このイベントに先立ち、韓国地域とソウル区が数ヶ月に及ぶ広報活動や募金活動を行いました。脱北者の学生とボランティアが参加し、有意義な時間を過ごしました。

脱北者の体験談

この日参加した脱北者の話です。20 年程前、ある北朝鮮の青年が学校から帰ってくると父親が行方不明になっていました。彼は、母親から、父親が政権批判をし、キリスト教を広めたと言う疑いで保安庁に連行された事を聞きました。その日、母親は、金庫から聖書とキリスト教の本を取り出して庭に埋め、息子を夜中に鴨緑江に突き入れました。彼は、一晩中7時間も川に浮かんだ後、中国のどこかに到着しました。そして、母親が教えてくれた宣教師の教会をやっと見つけました。その時彼は、ある讃美歌を耳にしました。それは、韓国の教会



の青年たちが歌う讃美歌でした。多分その讃美歌は、自由な韓国で神を信じて生きて欲しいと言う母親の切なる祈りに応えた

ものだったかも知れません。その後、彼は、いくつかの経路を経て韓国に渡り、何人かの人の助けを借りて韓国人として暮らし始めました。その若者は、現在、ソウルのワイズメンズクラブの会員である彼の親戚を通じてワイズマンになりました。彼は、いつか北朝鮮の家族に会い、故郷で働く日を心待ちにしています。



再会への憧れ切なる思い

このイベントは、夜中に鴨緑江を涉り、政権の圧政から逃れた、この北朝鮮からの脱北者の話からヒントを得ました。韓国には約 3 万 3 千人の脱北者がいますが、彼らの期待に反して複雑な状況の中、社会への適応に多くの障害があるのが現状です。その中でも韓国社会にうまく適応している人も居れば、中々うまく行かない人も居ますが、統一後は、故郷の北朝鮮に帰りたと言う人が殆どです。このイベントは、学業や仕事に困難をかかえている脱北者たちが職業的安定と社会的適応を図ることを目的としています。韓国地域元会長パク・ソン Chol は、17 名の脱北者に奨学金を贈呈しました。私たち

は、募金活動において YMI 国際本部、韓国地域、ソウル区、複数の企業、個人の方々から支援をもらいました。

ピースウォークとランニングは脱北者のために、当分の間続けて行きます。しかし、実はこのイベントは、きっと、故郷を離れなければならない世界中の脱北者のために必要なことだと思います。

投稿者：チョン・キョンジュ
ソウル区理事 (2021-2023)

ロシア:子どもたちが自由な時間を楽しみました



ロシアのエカテリンブルグの第2ワイズメンズクラブは17年以上前からチェルノウシヴォ村の孤児院の支援を始めました。このプロジェクトは、すべてのエカテリンブルグ市のワイズメンズクラブの共通のプロジェクトになっています。

17年の間には、孤児院でも数々の事がらが変わりました。子供たちは、殆ど必要な物を持っていますが、人々は、いつでも子供たちに贈り物を提供する用意があります。昨年、いつもの経済的援助に加えて、私たちは、文化的かつ教育プログラムを用意しました。

この夏は、わずか3週間をサマーキャンプで過ごしましたが、残りの日々は孤児院で過ごしました。教師と監督者は、子供たちが絶えず暇なく過ごせるようにいくつかの風変わりなイベントを準備しました。私たちは、彼等の自由活動に参加することを決めました。

7月20日には子供もたちのグループがエカテリンブルグに到着し、私たちは、彼らを心から温かく歓迎しました。私たちの活動的なワイズウーマンのひとりであるラリサ・コノヴァロヴァ

は、当地区にある歴史博物館への遠足と彼女が理事館長を務めているアガプロフ兄弟博物館での鉄の抽出と金の抽出についての短い教育的プログラムを用意しました。私たちが、歴史的庭園の中にある市の中心部を歩いている時、そこにある池の堤で、子供たちにエカテリンブルグが2023年には市政開始以来300年を記念する年となる重厚な歴史を説明しました。私たちは、数多くの記念碑、噴水やその他の景勝地を道すがら見ました。多くの素敵な写真を撮りました。

いつでも彼らをどの様に遇したのかを知ることは、大変意味あることです。何故なら、素晴らしいシェフが大変おいしい料理を調理したからです。新鮮なピザ、自家製のクランベリージュースと大きなスイカは、子供たちの期待を裏切りません。

子供たちは、計り知れない喜びで大都市での幸福な一日を過ごしました。

(オルガ・ボツコワ 元地域会長、
2022 - 2023 クラブ書記)

インド: 奨学金プログラムを開始



奨学金授与プログラムの開始を告げるランプを灯す
国際会長 K・C・サミュエル



第1回目の奨学金を受給学生に授与する
M. アニル・クマール、コーチン市長

南チットゥールワイズメンズクラブ(インド中西部区)は最近、設立10周年を迎え、25人の優秀な学生への奨学金プログラムを開始しました。最初の奨学金は、コーチン市長であるM・アニル・クマールから10人の学生に手渡されました。

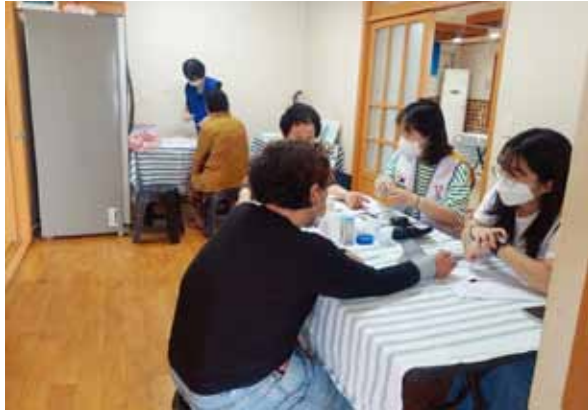
国際会長のK・C・サミュエルは、奨学金授与プログラムの開始を宣言し、今後数年間のYMIの取り組みについて説明しました。

また、「世界を癒そう」という世界的なテーマについて詳しく説明し、南チットゥールワイズメンズクラブが、健康や環境と並んで世界的なテーマの重要な要素である教育を、優先的な活動分野として選択したことに祝辞を述べました。

この催しには、会員の家族や受益者、自治体首長、区、部のリーダーたちなど、160名以上が出席しました。

韓国：医療ボランティアが村人の心をつかむ

2022年6月11日(土)、キムヘヘルパーズハイとキムヘキュアの両クラブが、韓国・キムヘ市のハリム・ドクチョン村の恵まれない村で合同医療ボランティア活動をしました。コロナウイルスの影響で、公民館や老人ホームは2年以上も閉鎖されていま



村人のバイタルサインを記録する医療サポートスタッフたち



自分の受診をじっと待っている様子

したが、最近ではソーシャル・ディスタンスが緩和されて、このような活動が可能となりました。第4代会長ヤン・ジュホンの「健康ボランティア」というスローガンのもと、キムヘキュアクラブとで共同医療奉仕活動が始まりました。

ハリム・ドクチョン村は、ハンセン病の患者24家族が住む村です。診療所は全く無く、病院に行くにも公共交通

機関を何回も乗り換えなければならず、周囲には小さな無認可工場が幾つかあります。そこには40歳か50歳代の人は居なくて、最年少が70歳代後半で、あとは、80歳代以上の高齢者たちです。治療日には、早い時間にもかかわらず、すでに多くの人たちが老人福祉センターで待っていました。この地域には医療機関が無いので、住

民にとって医師の訪問診察が大きな意味を持っています。循環器科(チェ・ギナム院長)、整形外科(パク・ソンジェ)、泌尿器科(ヤン・ジュホン副院長)の治療のほか、注射や薬の処方、理学療法なども行われました。

村長の尽力により、この村のお年寄りも全員来る事が出来ました。診療を待っている間、「初めて来たよ」「今度また来てね」「食事を出したかったのだけれど.....」と、心から歓迎してくれ



最前線で指揮を取るキム・サンチェ直前国際会長

医療ボランティアも大切ですが、それ以上に、「人と会えないから寂しい」という理由で、一緒に過ごす時間を大切にしているようです。

ました。彼らは、外部からほとんど人が来ない寂しい所に住んでいるので、私たちの訪問をととても喜んでくれました。医療ボランティアも大切ですが、それ以上に「人と会えないから寂しい」という理由で、一緒に過ごす時間を大切にしているようです。

ワイズメンズクラブの目的のように、愛を共に尊重し、協力し合うグローバルで友好的なボランティアグループと共に、自分の才能を人の為に使い、共有する事で、私たちは、やりがいと幸福感を感じました。キムヘヘルパーズハイクラブとキムヘキュアクラブの医療奉仕は、今後も継続し、ワイズメンズクラブの趣旨を上手に生かして、多くの人とのコミュニケーションを計り、困っている人たち全てに働きかける組織となるよう努力いたします。

投稿者：キムヘヘルパーズハイクラブ



村の医療に携わるボランティアたち

USA:ポンデローサ松とブラックオークの木をセコイアレイク YMCA へ



太平洋南西区 (PSR) は、YMI の 100 周年記念プロジェクトとして「100 本の樹」を選びました。PSR のクラブ会員とその友人たちからの寄付は 3,500 ドル以上となり、75 本の 5 ガロンポンデローサ松と 25 本のブラックオークの苗木を購入し、セコイアレイク YMCA のキャンプ・ミルウッド地区に植樹されました。この地域は過去数年間、キクイムシの被害により多くの松の木が撤去されたところでした。リードリー・カレッジの林業プログラムがセコイアレイクの森林管理に過去 50 年間貢献してきました。リードリー・カレッジの引退講師や現役の講師陣がこのプロジェクトのためにリーダーシップを発揮し、良い苗床を探したり、どこに植えるかを決めたりして植樹の手助けをしました。ケント・キニー (引退講師でワイズマン) はトレーラーで木を湖まで運び、75 の穴を掘った後、「如何にして」「どうして」適切に植えるのかについてデモンストレーションを行いました。(彼が素晴らしいインストラクターであることは、誰の目にも明らかでした!)

2022 年 5 月 29 日 (日) には、約 25 名のボランティアたち (ワ

イズメン、セコイアレイク YMCA のボードメンバー、そして多くのセコイアレイクの友人たち) が集まり、約 4 時間で 75 本のポンデローサ松を植え、水をやりました。お祝いの食事は、クロヴィス・フレズノ Y サービスクラブのドン・フォスター副会長と夫人ならびにテリー・ホラックの厚意で提供されました。

6 月 7 日 (火)、ジョシュ・ソダーランド (インストラクター) の位置確認や穴掘りの指導のもと、最後の 25 本のブラックオークの苗が植え付けられ、それにはクロヴィス・フレズノクラブのラス・スィダムと区理事のダン・エレブリー等が手伝いました。この場を借りて、この最初の夏、苗木に水が行き届くよう尽力したラス・スィダムには特に感謝を申し上げます。このプロジェクトは、セコイアレイクの YMCA キャンパーと環境の双方にとって有益なもので、必要な時に必要な人が集まってくれた結果です。

私は、この私たちの区に、友人およびボランティアを、そして結果を大変誇りに思います。

太平洋南西区理事 ダン・エバリー

インド:学童への贈り物



バンガロールクラブの支援によりバンガロールITコリドークラブ会員が多く住む地域の公立学校の子どもたち125人にスクールバッグ、本、文房具を配布しました。この学校の子どもたちが新学期にこのような贈り物を受け取るようになって今年で5年目になります。配布には、両クラブのリーダーや学校関係者が参加しました。

ラテンアメリカ:アン・ジャービスクラブの中心にあるボランティア精神

このクラブは、ブラジル、ポルト・アレグレ YMCA による、「母の日」の創始者である、アナ・ジャービスを賛辞するために、命名されました。現在会員は、意気軒高で活発な 20 名の高齢の女性たちで構成されています。ブラジルにおいては、ここだけが女性だけのクラブです。

5 月 14 日に、クラブはその活動の 35 周年を終えました。主な募金活動は、年間を通じての、ビンゴ、リサイクル販売や抽選会などです。これらの活動を通じて、YMCA の子どもや若者と協働することができています。「ベーシック・バスケット」(缶詰、米、豆、ミルク、塩、砂糖等からなる、ケアパッケージ) による寄付で、クラブは、各家庭や地域に手を差し伸べています。クラブは、さらに、目の不自由な人のために活動する NGO とも協力しています。私たちの会員は、68 歳から 91 歳までの年齢ですが、社会と関わりを持つ多くの若者にとってのお手本だと言えます。

その他の私たちのボランティア活動としては、他の国々からの仲間を快く受け入れていることです。私は、自宅にこれまでデンマーク、アメリカ、スリランカ、スウェーデン、日本、インド、南米諸国等の多くの国々の 28 名の会員を受け入れました。1998 年には、デンマークからの YEEP



常に国際的ゲストをホストし、フェロウシップと友情を育むために遠距離交流も行う

の学生を 6 か月受け入れました。

コロナ禍の時期、私たちは、直接の会合を持っていませんでしたが、オンラインによる抽選会の実施で、ボランティア活動と募金を継続していました。

私たちの主要な目的と関与は、121 人の子どもたちがいるデイケアセンターへの奉仕を、建物維持のための資材と乳糖不耐症の子どもたちのために乳糖フリー牛乳を含む食べものを寄贈することで行うことです。さらに、他クラブとの交流に参加し、そこで求められる協働活動に貢献する事です。

マリア・ユニス・チアラディア



ケアパッケージの配布は、このクラブの中核的活動



デイケアセンターの子どもたちと

クラブ、部、区、のリーダーからの、YMI ワールドへの寄稿を求めます。

次号への締め切りは、
2022 年 11 月 23 日です。

至急お願いします。

地域からのニュース

レイダン・リービーは与える喜びのために編み物をする

ノルウェーのアスケルに長年住んでいるレイダン・リービーは、東欧の子どもたちが好きです。彼女は、編み物をする趣味の技術を、余った毛糸で手袋や帽子、靴下を大量に編むなど、有益に活用しています。



彼女は、完成品を本当に必要としている人に譲りたいと考えていましたが、私が、共通の友人であるラグンヒルドを通じて彼女に連絡を取ったところ、私が、ロシアに旅行に行く際に持っていける相当量の完成品があることを知りました。2

カ月後に、私が、ロシアに旅した際、ロシアのワイズメンと一緒に訪れたエカテリンブルグの孤児院に届けることができました。孤児院を訪問して喜びをふりまき、子供たちを幸せにすることは、ロシアのワイズメンが得意とするところであり、ロシアのいくつかの都市で行われていることです。

このところ数年、私のロシアへの出張はかなりありました。レイダンは、送るのに十分な量があるとき私に連絡し、私が、ワイズメン関連の用件で訪問したサンクトペテルブルグ、コラ、または、エカテリンブルグに届けるための

予備のバッグにニットの衣類を入れておきました。

2月になると、ウクライナの戦争でロシアへのフライトは全て中止となりました。

しかし、私は、7月の始めに、デンマークのオーフスで行われたワイズメンズクラブ国際協会の100周年記念式典に招待されました。この機会に私は、受け取った新しいニットの衣類を全て運び、ロシアから誰も参加できなかったので、代わりに、それを次期ヨーロッパ地域会長であるエストニアのピーア・カロ・セルグに手渡しました。ピーアは、秋に彼女の母国エストニアに加え、サンクトペテルブルグ、ラトビア、リトニアのクラブを訪問する予定だったので、東欧のワイズメンに、これを渡すことになります。彼女は、孤児院の子どもたちを対象にした活動をしているクラブにニットの衣類を配ることができ、とても喜んでいました。

レイダン・リービーは、新しいアパートでの生活が落ち着いたら、また趣味を再開する予定だそうです。この夏、私がオーフスから帰国した数日後に彼女を訪ねたとき、彼女は、編み物をやめるつもりは全くないと話していました。

オステンスタッドワイズメンズクラブ、元国際会長ヘンリー・J・グリンドハイム



ロシアに送る毛織物をピーア・カロ・セルグに渡すヘンリー元国際会長

世界最高齢の YMI クラブ会員ボディル・アーノンセン

マンダルフイズメンズクラブのメンバーであるボディル・アーノンセンはノルウェーのマンダルフ YMCA/YWCA の原動力となってきました。彼女は、80 年以上もの間、私たちのキリスト教地域青年のフェローシップに参加してきました。ボディルは、現在 100 歳で、9 月には 101 歳になる予定です。数年前に亡くなった夫のトヴとともに、余暇をすべて私たちの社会の若者のために捧げています。私たちは、この活動にとっても感謝しています。

2014 年 3 月に当クラブがチャーターされた際、ボディルとトヴは、チャーターメンバーとなりました。最近までボディルは、自宅で一人暮らしをしていました。現在、彼女は何らかの支援を必要としており、旧友との交流を楽しみながら、地域の介護施設で生活しています。彼女



は、まだクラブの会合に定期的に参加しています。

マンダルフイズメンズクラブのメンバーの多くは、幼少期から 10 代にかけて、地域の YMCA/YWCA で育成されてきました。私たちは皆、ボディルとトヴが、私たちに大いに貢献してくれていることを知っており、彼女たちが創出した堅固なキリスト教の環境と連帯感に感謝しています。

私は、ボディルが、ワイズメンの活動に寄せてきた支援と貢献は、顕彰されるべきだと考えます。

ボディルさんより年上のメンバーはいるでしょうか？

マンダルフイズメンズクラブ・直前会長ビヨルン・アーヴ・ベンツェン

「2022年とその先に向けて」タスクフォースの振り返り 9頁からのつづき

国際事業主任が自分たちの仕事をよりよく理解し、彼らの成功を支援することが、私たちの第2の課題となりました。その考えから、2つのことが始まりました。

1. マニュアル審査委員会が完成させ、「2022年とその先に向けて」タスクフォースがレビューした事業主任マニュアルの更新

2. メンターグループの立ち上げ

コンセプトは、国際事業主任をサポートし、彼らの職務に関する情報を与え、必要な時には指導し、地域事業主任と連絡を取り合う方法についてアイデアを共有し、彼らの努力がより良い記録となるよう、報告書を完全かつ適切なものにする手助けをすることでした。

ムン次期国際会長は、メンタープロセスを組織する際に、国際議員（国際議員としてのみの職務を行う者）を加えることで、彼らが、より積極的に参加し、国際協会について、より多くを学び、国際事業主任の代弁者として責任を持ってもらうよう要請しました。これは、新しいアイデアだったので、タスクフォースのメンバーは、何が必要かを学ぶために最初のメンターとなりました。ムン次期国際会長の提案により、地域会長、次期地域会長以外の国際議員は、国際議員コーディネーターとして、すべてのメンターと国際事業主任の会話に参加し、国際議会で国際事業主任を代弁することの役割を担うよう求められ、必要あれば、国際事業主任の代弁者として動議を提出します。すべての国際事業主任から報告を受けることは、メンターの最初の目標であり、それは、初年度の年央会議で初めて達成されました。すべての報告書が完成したわけではありませんが、すべての国際事業主任が報告書を送りました。国際事業主任メンターと国際議員コーディネーターの役割の詳細は、YMIのウェブサイトにある「事業主任マニュアル」に記載されています。

新しいメンターとコーディネーターがローテーションしています。国際事業主任をサポートするプロセスは、まだあります。コミュニケーションは、まだうまくいっていないようで、地域事業主任が効果的に機能していることを確認するために、地域がサポートをする必要があるようでした。これをどのように実現するかは、各地域の責任です。

事業主任の数が増え続ける中、「2022年とその先に向けて」タスクフォースは、多数の事業主任を完全にサポートすることは困難であると判断しました。メンター/国際議員コーディネーター・プログラムは、関連する務めを持つ国際事業主任をグループ化しました。次期の戦略2032グループは、このグループ分けを再検討し、どの事業主任が関連性を保ち、どれを統合できるかを検討することを行いたいかも知れません。

3. コミュニケーションの最適化

国際事業主任と地域事業主任間のコミュニケーションが効率的に機能していないことを認識した後、次の課題は、すべての事業主任が一つ下のレベルの事業主任とコミュニケーション

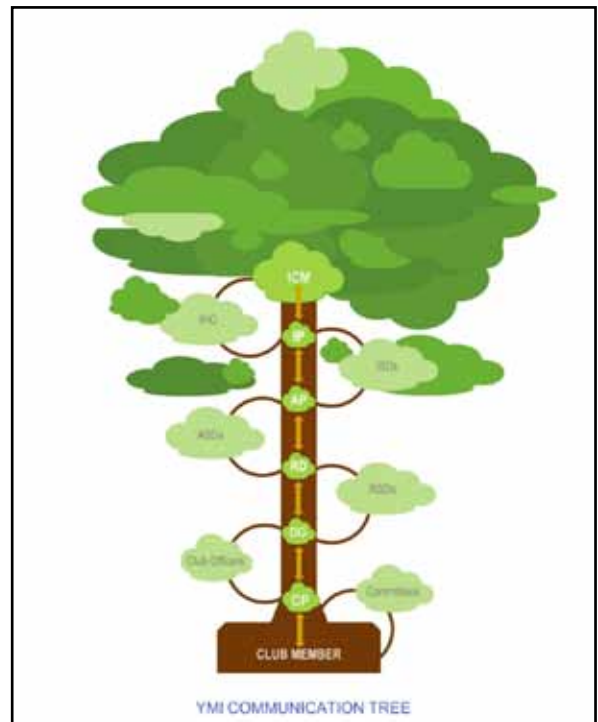
ンできることを保証し、すべての選出されたリーダーが彼らの任命した者がそのタスクを遂行しているかどうかを認識できる方法を見つけることでした。タスクフォースは、コミュニケーションの問題を何度か検討し、国際事業主任と地域事業主任が協力しているかどうかを地域会長が知らないことを発見しました。

元国際会長のアイザック・パラシカルは、国際事業主任と地域事業主任のコミュニケーション方法を変えることを提案しました。コミュニケーションラインにAPを追加して、最上位レベルのコミュニケーションのやり取りに加わり、その他のレベルのコミュニケーションラインも同様に行う提案です。YMIコミュニケーションツリーは、クラブ、区事業主任/区理事、地域事業主任/地域会長、そして最終的に国際事業主任/国際会長のコミュニケーションプロセスを示すために開発されました。このツリーは、国際事業主任マニュアルで見ることができ、それぞれのポジションに就く前にすべての事業主任が確認する必要があります。

地域会長は、2つの理由から、国際事業主任から地域事業主任、地域事業主任から国際事業主任に関連するすべての通信の宛先に含まれなければなりません。

1. 国際事業主任と地域事業主任の両方が協力していることを地域会長が認識するようにすること

2. 地域会長は、国際事業主任が何を目標として伝えているのか、また、国際事業主任が地域事業主任にどのようにその目標を達成することを期待しているのかを知る。このプロセス



YMI コミュニケーションツリー

幹 (上から): 国際議会 国際会長 地域会長 区理事 部長
クラブ会長 クラブメンバー

左 (上から): 国際本部 地域事業主任 クラブ役員

右 (上から): 国際事業主任 区事業主任 委員会

ゴールドメンバー



黄金の瞬間 (左) 1972年にカンガルーフラットYサービスクラブのチャーターメンバーとなったテッド・ビッグス、ウェイン・キャメロン、ビル・モラーの3人が、会計のクリスティーン・ヴァン・デル・ゼーが作ったクラブ50歳の誕生日ケーキをカットしています。
(右)Yコミュニティールのホワイエに設置されるカンガルーフラットワイズメンズクラブ/Yサービスクラブの50年間に亘るコミュニティへの奉仕を記念したブロンズプレート

17 ページからつづき

は、地域事業主任が区事業主任に連絡し、区理事に何が起きているかを認識させ、さらにクラブレベルまで降ろし、また同じように上げていくという形で続きます。

4. 180デグリーズコンサルティング調査

タスクフォースでは、私たちの将来を見据え、また私たちの中には複数の文化が存在することを認識し、YMCA、コミュニティ、そして世界により良いサービスを提供するために、各地域のニーズを把握する必要性がありました。会員に関する情報と私たちの組織外の人々からの情報を集めるために、ただ一つの調査を行うことは、現実的ではないし、多様な文化に対応した正確な結果を得ることもできません。

ジェイコブ・クリステンセン国際会長の提案で、180デグリーズコンサルティング(180DC)に連絡を取り、最終的に私たちの組織について知るための手助けをしてもらうことになりました。パイロットプロジェクトは、米国とカナダで実施されました。いくつかの区からは素晴らしい回答が得られたものの、回答数が少なすぎたため、結果は芳しくありませんでした。しかし、180DCのチームは、米国地域とカナダ/カリブ海諸国地域のウェブサイトとソーシャルメディアを見ることに時間を費やしました。その結果、非効率的なコーディングによるレスポンスタイムの遅延、過剰なテキスト、情報を適切に保つためのレビュープロセスの欠如、定期的な更新の欠如などが判明しました。また、いくつかのサイトは安全ではなく、180DCは多くのサイトがハッキングされていることを発見しました。今、米国地域とカナダ/カリブ海諸国地域は、オンラインプレゼンスを向上させるために努力しています。

第2次180DCプロジェクトは、パイロットプロジェクトで学んだことが活かされています。ヨーロッパ地域のプロジェクトは現在進行中です。前半は、会員増強とコミュニケーションに関する問題を見極めることでしたが、6月に完了しました。プレゼンテーションでは、会員の指標に関する情報と、会員と非会員

の両方からの印象に関する情報が示されました。この原稿を書いている時点では、最終報告書が共有されたばかりですが、詳細な報告書を確認するためには、時間が必要です。

次のプロジェクトは、ヨーロッパ地域のプロジェクトを継続し、最初のプロジェクトで発見された問題に対処することになります。

米国地域とカナダ/カリブ海諸国地域の報告書とヨーロッパ地域プロジェクトの初期データは、類似性を示していますが、ある程度のばらつきがあることも事実です。

「2022年とその先に向けて」タスクフォースは、180DCプロジェクトが全地域で継続されることを提案し、期待しています。タスクフォースは、残りのプロジェクトを同時進行させ、全プロジェクトを完了するのに必要な時間を短縮し、より効率的な調査を行うために、過去のプロジェクトから学ぶ時間をとることを提案しています。

5. 「2022年とその先に向けて」タスクフォースの終了

新しい、YMI戦略2032ワーキンググループの継続に伴い、「2022年とその先に向けて」タスクフォースは、国際議会の投票によって、終了しました。YMIの将来と目標を考えることは、現在、そのワーキンググループの業務の一部となっています。このワーキンググループは、YMIの長所と短所を学び、それをどのように解決するかについての若い人たちの意見を聞くために大学生を使い、将来の180DCプロジェクトをサポートし続け、すべての分野でYMIを強化し、成長させることが期待されています。私は、タスクフォースの委員長として、要請があれば新しいワーキンググループをサポートします。

「2022年とその先に向けて」タスクフォースは、私たちの運動を研究するための戦略2032ワーキンググループにバトンタッチします。私たちは、あなたがたがYMIの未来を支えるために前進することを祈っています。あなたの時間と努力が、私たちをより強くし、成長させる助けとなりますように。

援助を通しての癒し



「誰もがベトナム戦争の事を良く知っているかのように振舞いました。しかし、本当は彼らの誰一人としてインターネットで検索して得た知識以外の事を知ってはいませんでしたし、快適なニュース番組のデスクから政治評論家達がとうとうと述べた、うさん臭い事実の一部に過ぎませんでした。これまで何も明るみになる事はなかったのです。何故なら誰一人として参戦した兵士達にわざわざ質問をしたり、両陣営の語った事に目を向けたりしなかったからです。」

—フリント・ヴァン・ウインクル、Soft Spots: ある海兵隊員の戦闘回顧録と心的外傷後ストレス障害

PTSD（心的外傷後ストレス障害）とは、戦争や甚大な自然災害のような恐ろしい出来事を経験したり、見たりした事ことのある多くの人たちを苦しめている疾患です。結果として、心が張り裂けるような過去の出来事が突然蘇ったり、悪夢を見たり、深刻な不安感に襲われます。より厄介なのはPTSDが時間の経過とともに和らぐことがないことです。

ベトナム戦争からの帰還兵の大部分やベトナムの戦場で生活していた人々は現在も尚、PTSDに悩まされ続けているのです。残念な事に、その地域社会に住んでいる人々の大半は言うに及ばず、家族でさえも、彼らを理解し、必要な支援を提供するに足る十分な知識も技術も持ち合わせていないのです。PTSDに悩まされている多くの人たちは孤立無援で悪夢に苦しみ、成すすべもないのです。他者が何の治療も施さないからではなく、どんな治療を施せば良いのか見当がつかないからなのでしょう。それが理由でPTSDに悩まされている人たちの多くが最終的に路上生活者となっています。報告書によると2009年には、13万人を超える退役軍人がアメリカの各都市で路上生活をしていたという事です。アフガニスタン戦争やイラク戦争も起こったので、その数は更に増加したに違いありません。政府から支給される食料品購入券や社会福祉補助金が打ち切られるという恐れが、更なるストレスを退役軍人たちに与える可能性が極めて高いと思われます。何故なら、彼らの仕事を続けたり、更には健全な人間関係を築いたりする能力が生活苦に関わる精神的な問題によって制限されているからです。

ベトナムへ戻って受けた歓迎と容認

絶望的な状況の中でPTSDに悩まされている退役軍人の一部は、癒しを求めてベトナムに戻る選択をしました。これは必ずしも容易な選択ではありません。恨みを持つ人々と会うという恐れ、「敵」が、彼らや友人たちに対して行った事ことに対する怒り、癒しを見出せるかどうかという不安感がベトナムに戻る選択をした退役軍人たちのストレスを更に高めています。

ベトナムで退役軍人たちを迎えたのは、しばしば理解しがたい、心からの歓迎と容認でした。数年前、私が、(戦時中に北ベトナムと南ベトナムの境界線であった) 非武装地帯を訪れた際に、多大な人々の生活に悪影響を与えたベトナム戦争についてもっと学び、理解したいと思っている訪問者のために非武装地帯のツアーガイドをしている若者に会いました。彼自身もベトナム戦争によって多くの苦しみを経験しました。彼の両親は、共に殺害されました。自宅やその周辺地帯は、爆撃によって破壊されました。幼い少年の頃、難民キャンプを転々とし、生き延びる術を学びました。彼の村を戦争に巻き込んだ人々を恨む理由は枚挙にいとまがありません。それにも関わらず、彼は、ベトナムに戻って来たアメリカの退役軍人たちに献身的に接し、彼らが癒しを見出す手助けをしていたのです。彼は、私に「何人かの退役軍人の方は、自らが戦った戦場を訪れたいと言われたので、その場所にお連

れました。何人かはその場所に立ち尽くし、声をあげて泣いていました。私は、彼らに泣くための場所を提供します。他の人たちは、仲間の兵士を殺害したベトナム人を罵っていました。私は、彼らに罵る場所を提供します。またある人たちは、赦しを請うていました。私は、彼らが癒しを求める必要性を理解できるので、それを見出すお手伝いがしたいのです。」と語りました。

チャック・サーシーと再生プロジェクト

多くの人たちが観光客として短期滞在する一方で、一部の人たちはベトナムに留まり、彼らが破壊をする片棒を担がされた被災国の再建の援助をする決心をしました。その活動を通じて彼らは、癒しを見出し始めたのです。その一人がチャック・サーシーという人物です。彼は、1967年に兵士として初めてベトナムにやって来ました。その後何年も経ってから再びベトナムを訪れ、不発地雷や不発弾の除去の手助けのために非武装地帯の近くで働き始めました。終戦後50年以上経った現在も、この不発地雷や不発弾は、農民や彼らの子供たちの手足や命を奪い続けているのです。チャックは、地面から、これらのまだ爆発していない殺人兵器を取り除く手助けを行う「再生プロジェクト」という組織を創設しました。「再生プロジェクト」は、また、学童のための特別授業を開講して、子供たちに不発兵器の危険性と畑や遊び場でそれを見つける方法について教えています。

「再生プロジェクト」が最も重点的に活動を行っている非武装地帯近くの地域は、ベトナム戦争中に極めて多くの爆弾が投下されました。第二次世界大戦中にヨーロッパ全土に投下された爆弾以上の爆弾がこの比較的狭い地域に投下されたと信じられています。それらの爆弾や関連する砲弾のおよそ10%が着弾しても爆発しませんでした。それらは、現在も人を死に至らせるほど危険な状態で放置されており、子供たちが玩具だと勘違いして拾い上げたり、農民が作付けの準備をしたりする際に鋤で誤って打ちつけるのを待ち構えているのです。

援助を通しての癒しは、退役軍人たちが、PTSDに対処しようとする一つの方法です。退役軍人の複数のグループは、かつて戦闘しか目にしていなかった場所に学校や診療所を建設する援助をするために毎年ベトナムに戻っています。彼らは、事によると互いに戦火を交えていたかもしれないベトナム人退役軍の人たちと頻りに協力しています。新たな人間関係が構築され、自らが望んでいなかった戦争から意に反して被った痛みを彼ら全員が克服しようと努力しているので、より健全な人生への扉を開ける共通の絆を見出したのです。

たとえ、PTSDに苦しんでいる人たちの心情を理解できなくても、私見を交えることなく彼らの言葉に真摯に耳を傾ける事ことはできます。そうする事ことによって、おそらくベトナム戦争が彼らの心に残した重荷を少しでも降ろす事ことのできる安全な場所を提供できるのです。そうする事ことによって男女を問わず若者たちが、PTSDに支配された人生を強いられる事ことがないように、私たちがこの世から戦争を無くすことにもっと真剣に取り組む上での一助となるはずですよ。

* マックス・エディガーは、カンボジアの「平和の学校」の運営責任者です。

ワイズメンズクラブ国際協会



Y'S MEN
INTERNATIONAL

To acknowledge the duty that
accompanies every right

強い義務感を持つと
義務はすべての権利に伴う

We are committed to
making the world a better
place by addressing its
most urgent needs.

私たちは、世界の緊急のニーズに応えることで、世界をより良い場所にすることを約束します。
クラブ会員になりましょう。

Become a Club member

Recharge your life with Fun,
Fellowship and Meaningful Service.

楽しみ、親睦、有意義な奉仕活動で、あなたの人生をリチャージしてください。

For more details, visit:

www.ysmen.org